

絶え間ない科学技術イノベーションの 創出に向けて (説明資料)

2014年4月16日

産業競争力会議 フォローアップ分科会(科学技術)

主査 榊原 定征

1. 日本再興戦略の着実な推進

科学技術イノベーションを絶え間なく創出させ、「技術でもビジネスでも勝ち続ける国」となることが重要

(1) 総合科学技術会議の司令塔機能強化

- 科学技術イノベーション予算戦略会議の設置、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)や革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)のスタート等、一定の成果
- 内閣府設置法の改正による法的権限の強化や事務的機能の強化等の引き続きの対応に期待

(2) 知的財産政策の推進

- 産業界のメリットと発明者のインセンティブが両立するような職務発明制度の改善(職務発明の法人帰属化)及び官民が連携した効果的な営業秘密漏洩対策を速やかに実現するべき

(3) 新たな研究開発法人制度の創設

- 今国会での独立行政法人通則法の改正及び運用改善事項のスケジュール具体化が重要
- 準備が遅れている特定研究開発法人制度についても、早期の進展を期待する

2. イノベーション創出のための研究開発環境の再構築

我が国を最もイノベーションに適した国へと引き上げていくためには、研究開発環境の再構築が必要

(1) 有識者議員から示された研究開発環境再構築のための提案(ドイツの制度を参考に)

- 研究開発法人を核とした産学官連携プラットフォーム
- 研究開発マネジメント人材の育成によるファンディング機関の機能強化
- 技術シーズ創出力強化

(2) 甘利大臣から、イノベーション・ナショナルシステムの検討を表明